

新基地建設反対名護共同センターニュース

戦争で真っ先に狙われるのは軍事基地

冷たい雨の中、名護市役所前で「ロシアは侵略を直ちにやめよ！」と声を上げる市民



ゲート前で手づくりのパネルを掲げる 辺野古在住の金城武政さん（7日）



島ぐるみ会議名護のブルーアクションでロシアのウクライナ侵略を糾弾する市民（5日）

島ぐるみ会議名護が5日、名護市内でブルーアクションとしてスタンディングを行い約40人が参加。「新基地より命とくらし」、「プーチン政権によるウクライナ侵略弾劾」、「NO! WAR」など手づくりのプラスタワーを掲げ、道行く人やドライバーにアピールしました。

名護市民有志の呼びかけで7日、名護市役所前でロシアによるウクライナ侵略に抗議する集会が55人の参加で開催されました。呼びかけの一人浦島悦子さん（74）は、「ウクライナの現状について、沖縄戦を体験した人は身を切る思いで見ていると思う。プーチンの侵略にはどんなに非難しても足りない。しかし、武力に押し負かされた国は泥沼化するだけだ」。吉川秀樹さん（57）は、「日本の周辺で戦争になったら、一番狙われるのは沖縄の米軍基地だ」などと侵略戦争を直ちに停止し、話し合いで解決することを求めるとともに、沖縄・名護から戦争反対の声を上げることの重要性を訴えました。

「ロシアのウクライナ侵略糾弾」の声広がる

沖縄・名護からこそ戦争反対の声大きく

海上チームが辺野古の現場で抗議

ヘリ基地反対協の海上チームは5日、抗議船2隻、カヌー7艇を繰り出し、辺野古新基地建設の現場から抗議行動を展開。抗議船に乗った「辺野古ストップ・滋賀の会」の高田恵子さんは、「山を壊した土で海を壊す自然破壊の連鎖は許せません。本土で連帯の闘いを広げるために、全国の地方議員はじめ多くの人にこの現場を見てもらいたいですね」と話していました。



K8 護岸付近でカヌーチームはフロート内に入り、「違法工事は中止せよ」「サンゴを殺すな」と抗議行動を展開しました。



K9 護岸から見た N2 護岸。赤土を運ぶダンプカーが数珠つなぎでした。



K9 護岸でもダンプカーが数珠つなぎになって赤土を運んでいました。

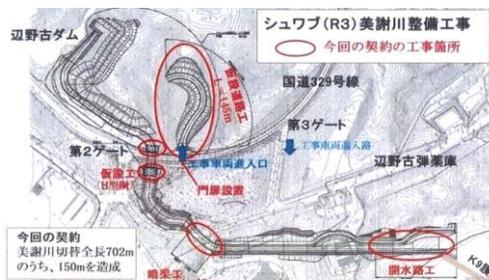
参院選 「オール沖縄」伊波洋一氏擁立へ

伊波洋一氏は6日、自身の後援会の会議に出席し、立民、共産、社民、社大、「新しい風」・にぬふあぶしの政党や政治団体、県議会議会与党の全4会派、連合沖縄や統一連など12組織の代表に参院選に立候補する考えを伝えました。（写真は伊波氏）

伊波氏は「沖縄の声をきちんと国政に伝えることがいっそう求められている。貧困対策やコロナ禍の産業や観光の立て直しなど基地以外の課題にも注力する」と2期目をめざす決意を表明しました。

伊波洋一氏（いば・よういち）1952年1月4日生まれ。宜野湾市出身。琉球大卒。96年から県議2期。2003年から宜野湾市長2期。16年7月の参院選で初当選。現在・参院会派「沖縄の風」代表。

美謝川工事 第3ゲート前は事故の危険性増大



オール沖縄会議現地闘争部と各市町村島ぐるみ会議は2月28日、キャンプ・シュワブゲート前のテント村で臨時合同会議を開催し30人が参加しました（写真）。

冒頭、平和市民連絡会の北上田毅氏が美謝川切り替えの工事計画、第3ゲート内側で始まった工事の概要などを説明しました。

同氏は「国道329号線の第2ゲートから北には工事用ゲート、第3ゲート、さらに商用車用ゲートが新設され、大量の工事車両が出入りする。この付近の国道は急カーブで見通しが悪く交通事故の発生が危惧され、防衛局は計画を見直すべきだ」と強調しました。